

書齋と原稿



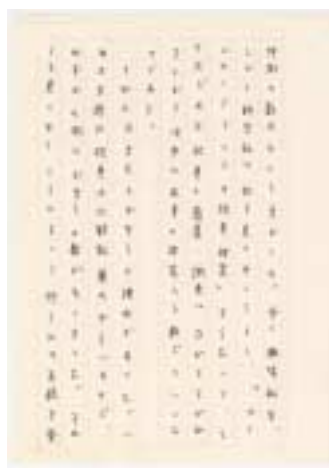
東京都府中市新町・自宅の書齋 住宅は書齋だけでなく壁のあるところは、本棚となっていた。左手本棚の下側は調査や旅で撮った写真の台帳。右手は本が二重に並んでいる。上部は監修した「日本に生きる」シリーズが並ぶ。窓上の額には受賞された生活学会の賞状。2つある地球儀は、どう使い分けておられたのか聞きもらした。昭和56年(1981)1月撮影



郷里の周防大島で、若い人々を対象とした研究会「郷土大学」が、昭和55年(1980)3月25日に開校し、宮本自らは「郷土の歴史」を講義した。この原稿は第1回目の講義メモ。72歳



昭和54年(1979)3月17日より、読売新聞で連載が始まった「二ノ橋界限」の原稿。実際の連載紙上では改題されている。写真は第1回、第2回の原稿の1頁目。71歳



読売新聞の連載「二ノ橋界限」、第3回目の原稿。